

北大経済学部 同窓会報

Hokkaido University
Faculty of Economics

第35号



発行者

北海道大学経済学部同窓会

発行日 2019年8月25日

電話 & FAX (011)706-4113

email dosokai@econ.hokudai.ac.jp

経済学部同窓会員数 12,602名



ごあいさつ

北大経済学部
同窓会会長
上野 昌美
(昭和47年卒)



同窓会会員の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

昨年秋の総会にて、同窓会会員の範囲が拡大され、在校生も同窓会員になりましたことお知らせいたします。北大経済学部同窓会は、従来は卒業生の親睦を主たる目的として活動してまいりました。

しかし、最近になって北海道大学とりわけ経済学部との連携が重要となってきました。北海道大学の同窓会組織も、全学同窓会・校友会エルムが発足し、在校生も会員として活動を始めました。こういう大きな潮流に対応すべく、今回の規約改正に至りました。さっそく新しい活動に取り組み、在校生を対象として大手人材広告企業、株式会社マイナビと共同で、インターシップ参加へ向けての準備講座を開催いたしました。講座には多くの経済学部生が参加し好評でした。また、昨年度は在校生支

援活動のための協賛金を募集したところ、多数の会員からご賛同をいただきました。厚く御礼申し上げます。

今後は会員間の親睦と在校生への支援活動を両軸として、積極的に活動してゆく所存です。会員の皆様の従来に増しての温かいご支援を今後ともよろしくお願い申し上げます。最後になりますが、ご寄稿くださいました皆様並びに会報作成にご協力くださいました皆様に心から感謝し、ごあいさついたします。



巻頭言

経済学研究院長
(学院長・学部長)

平本 健太
(昭和62年卒)

昨年4月に大学院経済学研究院長・経済学院長・経済学部長を拝命し、本年で2年目になりました。この1年間に振り返ると、大学に配分される運営費交付金ならびに、部局に配分される予算のさらなる削減をはじめとして、大学を取り巻く環境がいっそう厳しさを増しつつあるというのが偽らざる実感です。

こうした状況下、同窓会の皆さまには、平素より経済学研究院・経済学院・経済学部にご厚情を賜り、心より感謝いたしております。昨年度、同窓会が経済学部学生のための「協賛金(学生支援金)」を、新たに募ってくださいました。この学生支援金として、初年度から多くのご寄付をいただきました。学部および大学院学生のために有意義に使わせていただくべく、同窓会事務局とも連携をしながら使途を検討しているところです。また、同窓生の皆さまには、北大フロンティア基金などへの高額のご寄付を通じて、経済学部をご支援くださる方が多くいらっしゃいます。これからも同窓会との関係をいっそう密にして、同窓生の皆さまのご期待に応えられるよう、精一杯勤めたいと考えております。

さて、本年度のホームカミングデーは、来る9月28日(土曜日)に実施されます(<https://www.hokudai.ac.jp/home2019/>)。例年同様、午後に文学部・教育学部・法学部・経済学部合同企画により開催いたします。本年度は経済学部が担当部局となっており、「北海道観光の新たな可能性—アドベンチャートラベルとは?—」というタイトルでの公開講演会を予定しています。アドベンチャートラベルは、自然、アクティビティ、異文化という観光にまつわる3つの要素のうちの2つ以上を含む旅行と定義され、観光立国を目指す北海道にとって新たな可能性をもたらすものとして注目されつつあります。今回は、地域プロデューサーのかとうけいこ氏と、利尻島でネイチャーガイドをなさっている渡辺敏哉氏のおふたりをお招きし、わたしがコーディネータ役となって北海道観光のこれからについて展望いたします。多くの同窓生の皆さまのご参加をお待ちしております。

昨年度の同窓会報で、大学院修士課程におけるイェーテボリ大学とのダブルディグリー・プログラム(DDP)が始動したことをご報告しました。その後、台湾のトップ大学である国立台湾大学、韓国の有名私立大学である延世大学との間でも同様のDDPが締結され、大学院学生の派遣および受け入れの体制が整いました。大学のグローバル化がますます求められる中、われわれも海外のトップ大学との関係のさらなる強化を目指してまいります。

同窓会の皆さまにおかれましては、経済学研究院・経済学院・経済学部の取り組みにご関心をお持ちいただき、いっそうのご協力とご支援を頂戴できれば幸甚でございます。

北海道大学認定

同じ札幌の地で歴史を育む「札幌唯一の酒蔵 千歳鶴」が、創業140余年の伝統の技で丹念に醸し上げました。原料米は北海道が誇る酒造好適米「吟風」を使用した北海道産100%のこだわり逸品です。



斜めにも置くことができます。
180ml詰
822円(税込)

梅酒
雪の天使たち



特別純米
ポプラ並木
500ml詰
2,400円(税込)



大吟醸
ポプラ並木
500ml詰
2,900円(税込)

お問合せ先

札幌市北区北8条西7丁目
北大グッズ受注センター @エルムプロジェクト
TEL011-708-0388 FAX011-708-0389 <http://www.hokudai.seikyou.ne.jp>

札幌市北区北8条西4丁目(北大構内)
北大ショップ 北大交流プラザ エルムの森ショップ
TEL011-708-7540

売上金の一部は、北海道大学の運営費に充てられます。

●お酒は20歳になってから。●妊娠中・授乳期、また自動車・機械等の運転前、運転中の飲酒は避けて下さい。●お酒はおいしく適量を。●表示価格はメーカー希望小売価格(税込)です。

日本清酒株式会社 札幌市中央区南3条東5丁目2番地 ☎011-221-7106 <http://www.nipponseishu.co.jp>

今年の表紙は 「卒業生を送る会」

3月25日、午前中の卒業式に続き「百年記念館」において経済学研究院・経済学部の「卒業生を送る会」が開催され、200人を超える卒業生が集まりました。

まず、平本健太研究院長・学部長が「“選ばれた存在”“フロンランナー”としての自覚を持って新しいものを創りだし、世の中をよくするために頑張ってもらいたい」さらに、「社会に出てからのネットワーク作りに同窓会を積極的に活用してほしい」とのお言葉を送られました。

続いて上野同窓会長からはゲーテの言葉を引用し、予測困難な時代の中を自分を信じて力強く生き抜いてほしいとの饒の言葉がありました。

表紙の写真はその後のパーティーの様子です。北大経済学部同窓会の旗を持って記念撮影に応じていただきました（掲載したのはほんの一部です）。

恩師を囲んでの談笑の輪がいくつも見られ、最後まで安堵感と開放感にあふれた歓声が会場いっぱいに響き渡っていました。

この会には例年同窓会より20万円（優秀論文副賞含む）を寄贈し多くの学部関係者より感謝の言葉をいただいております。

経済学部・法学部同窓会対抗ゴルフ大会 —素晴らしい経済学部OBたち—

6月22日（土）札幌エルムCCにて第39回となる「伝統の一戦」が行われる予定でしたが、当日早朝から雨脚が激しく、さらに雷鳴も鳴りやまず、スタート直前で「中止」を決定しました。

この間、経済学部の参加者はキャンセルもせず全員現地に来て下さり、さらに用意した賞品を積極的に購入していただきました。

幹事として心から感謝申し上げますとともに、別の意味のスポーツマンシップを見た思いです。

来年も6月下旬に行います。景色も豪華です。スコア100以上でも優勝可能です。初参加者、初心者、女性…大歓迎いたします。参加ご希望の方は事務局までご連絡ください。



北海道大学の歴史とともに、
北大生協は
歩み続けています

北大生協の3つの使命

- ① 北大生協は「北大の勉学・教育・研究の発展に安心と信頼のサービス」で貢献します。
- ② 北大生協は、「学生・院生の自立・成長と学内構成員の協力・協同の促進」に寄与します。
- ③ 北大生協は「持続的発展可能な地域社会・国際社会の実現」に向けて力をつくします。

北海道大学生協同組合

札幌市北区北8条西7丁目 電話:011-746-6218(理事会室)

北大生協ホームページTOP <https://www.hokudai.seikyoku.ne.jp/>

北大生協ビジョンとアクションプラン ~2020年に向けて <https://www.hokudai.seikyoku.ne.jp/mission/>



ゼミ紹介 第5回

蟹江ゼミ

監査論 蟹江 章教授

① ゼミ紹介

□ゼミの活動

はじめまして。今回のゼミ紹介をさせていただき緒方富岳です。在学中は同窓会に関わるような機会をいただくことはあまりないので少なからず緊張していますが、緩く読んでいただくと幸いです。

蟹江ゼミでは監査論を扱っています。実はこの監査論、現在の経済学部のカリキュラムでは三年生の後期で初めて講義を受けるものです。したがって初めてゼミに入った新三年生は個人で学んでいない限り予備知識の無いままゼミに参加することになります。これが他のゼミと最も異なる点かもしれません。

蟹江ゼミは前期ではグループワークを行います。16人の学生を二つのグループに分けてテーマに沿った議論を行うこととなります。テーマは毎年異なりますが、例えば今年「監査業務と非監査業務の同時提供が監査の質に与える影響」をテーマにして一方のグループはそのメリットを、もう一方はデメリットを出し、最終的にディベートをしようとしています。前期に行うので、三年生は知識がないままグループワークに参加することになります。とても大変ですが、だからこそ三年生には自学がより強く促され、また去年同じ経験をした四年生はそのつらさを知っているからこそ、その学習を手伝いグループとしての結束が強くなっていきます。最終的には就活等で忙殺されてしまった四年生よりも三年生が議論を引っ張っていくようなこともあります。



後期では卒業論文の制作を主に行うこととなります。毎週割り当てられた四年生はその日までの卒業論文の進捗を発表します。四年生にとっては毎週毎週が勝負のような感覚であり、必死に論文を書き上げますが、たいていの場合その場で聞いたはずの蟹江先生に修正すべき点等を告げられることとなります。その幅広い知識に四年生は目から鱗の気持ちになります。三年生はともにグループワークで議論した先輩の論文に触れ、来年の自分を重ねることになります。また来年の卒業論文の草案を発表する機会もあります。そこで卒業論文の大変さを擬似的に体験するのですが、これが意外にきついです。また、後期になると三年生はゼミではなく、通常の講義で監査論を学ぶことができます。そこで体系的に監査論を

学び、さらに知識を深めることになり来年のグループワークに備えます。

□「自由」という名の「自立」

このようなゼミの活動は北大経済学部の数あるゼミの中でもとても「自由」に行われます。このゼミにおいて先生が決めることはほとんどありません。中間発表や最終発表の日程、ワークのテーマを決めますが、それ以外は学生が進めることになります。初めはその自由さに戸惑うことになります。ですが、その自由におぼれることなく成長するために学生には「自立」が求められます。自立し、自分に必要なことを求め行うことができなければゼミの時間を有意義に使うことはできません。そうやって大学生活の終盤をこのゼミでとても有効に活用することでゼミ生は社会へと旅立つこととなります。

② 蟹江先生のコメント



私が北大経済学部に着任したのは1994年10月で、翌年4月からゼミが始まりました。今年で25年目ということになります。OB・OGに現役の3・4年生を合わせたゼミ生総数は、ちょうど200名です。

私の専門が会計監査論だということもあってか、第1期生からほぼ毎年公認会計士を目指すゼミ生がおり、OB・OGには50名を超える公認会計士がいます。これが、私のゼミの最大の特徴だと思います。とは言っても、ゼミの内容は公認会計士試験に直接役立つようなものではなかったため、合格したのはすべて本人の努力によるものです。私に何某かの貢献があったとすれば、それは受験勉強の“邪魔”をしなかったことぐらいでしょうか。もちろん、公認会計士にならなかったゼミ生も、社会の様々なところで重要な役割を担いながら大いに活躍しています。優秀なゼミ生達に囲まれてここまでの25年間を過ごして来られたことは、教員としてとても幸せなことだと感じています。

25年間を振り返ってみると、ゼミの進め方は、前半と後半にほぼ二分できるように思います。

前半期は、ゼミ生の発表に基づいて、私自身が色々とコメントする形で進めていました。私がしゃべっている時間が長いゼミだったと思います。私もまだ若かったのでエネルギーがありあまっていたのかもしれませんが、ゼミ生とのディスカッションは、私自身の研究にも刺激を与えてくれました。

一方、後半期は、ゼミ生に全面的に運営を任せる形でのグループワークを中心に進めています。はじめの数期間は、教科書の問題をグループごとに解答し、それを相互に批評し合うという形を取っていました。近年は、3・4年生混成のグループを複数作り、グループごとに自らテーマや事例を選定し、ディスカッションを行い、そこでまとめた内容を発表し、最後にグループの責任で論文にまとめるというパターンが定着してきました。



ゼミの時間中は、議論を進展させてさえいれば、教室で話し合っても、図書館等へ情報収集に行っても、どこでどんな作業をしてもよいことにしています。この間、私はゼミ生達の会話に聞き耳を立てながらも、できる限り黙っています。もう若くなくなったということもありますが、4年生が前年の経験に基づいて、率先して指示を出したり作業の割り当てをしたりしながら、3年生と協力して着実に議論をまとめ上げてくれるようになったからです。もちろん、私も必要に応じてコメントをしたり指示を出したりはしますが。

こうした形でゼミを進めるようになったのは、受け身のゼミはやめよう、一人ひとりが能動的に頭と体を働かせるゼミにしようと考えたからです。私の想いは、確かな形になってきたと感じています。

③ OB・OGから

□山本悠雅さん（平成29年卒）



蟹江ゼミに所属し、得たことの中で最も大きなものは、調査を通じて得た情報を自らの知見とする方法でした。

蟹江ゼミの活動では、主にグループワークやディベートなどを行っておりました。その準備段階の調査では様々な理論や制度についての情報に触れる

こととなりますが、それらをまとめたとしても単なる情報の集合体でしかありません。情報の繋がりや意味を考え、自分なりに形にして、発表の本番では他人に伝え、さらに他人から伝えられることで、はじめて情報の集合体は知見へと昇華します。蟹江ゼミはそのような過程を経験するには打ってつけの場でした。ゼミの活動の間、蟹江先生は基本的には私たちの議論などを見守ってくださっているのですが、私たちが情報の波に吞まれ、手も足も出ないような状態になった際には、落ち着いた雰囲気の中で、時にはブラックジョークなども交えて、鋭い指摘とともに向かうべき方向のヒントをくださいました。それもあって私たちは、情報を得たことで全てを知った気になって驕ることもなく、確実に、自らの知見を広めていくことができたのではないかと思います。

卒業後に、北大の会計専門職大学院に通いつつ会計事務所の非常勤職員として働いている今、ゼミの活動で得ることができた自らの知見やその知見を得るための方法は、私の強みでもあり自慢でもあります。貴重な経験を積ませてくださった蟹江先生には感謝の気持ちでいっぱいです。

□林（旧姓：毛利）歩美さん（平成19年卒）



蟹江ゼミで過ごした2年間は、社会人として、そして、公認会計士としての基礎を築くことができた貴重な時間だったと思います。

蟹江ゼミで一緒に学んだ先輩や同期、後輩には公認会計士を目指していた方が多く、切磋琢磨しながら目標に向かって勉強しており、とても刺激的でした。今でも仕事で卒業生と一緒にすることがあります。また、同業以外にも様々な道へ進んだ方と一緒に学ぶことができ、見聞を広める事ができました。

勉学においては、会計士としての基礎である監査論はもちろんですが、その他の分野も学ぶ事ができました。蟹江先生はいつも学生の自主性を重んじ、監査論以外にも学生が興味を持った事ならば卒論テーマにさせてくださり、アドバイスもしてくださいました。

そのような経験があったからこそ、現在仕事をするうえで、財務諸表監査以外にも興味を持って挑戦することができているのだと思います。

また、プライベートでは、蟹江先生のお宅にゼミ生で遊びに行かせていただいた事が思い出深いです。先生は穏やかですが、ユーモアがあり、ご家族からも信頼されている事が伝わってきました。私もそのような社会人になれるよう、仕事にも育児にも常にベストを尽くして取り組む事を心がけています。

まだまだ未熟な社会人ですが、今後も北大経済学部蟹江ゼミで得た知識や繋がり、経験を生かし、社会人として成長し続けたいと思っています。



④ ゼミ訪問記

今日のテーマは議論のある「非監査業務」。学生が自主的に班に分かれ、ディベート形式でテーマを掘り下げていく。

先生は冒頭で差配された後は少し距離を置いて見守るというスタイルだ。おかげでその間、25年の間のゼミの形や学生との交わり方の変遷など、たっぷりお話が聞けた。

先生は愛知大から阪大大学院で博士後期課程を経て弘前大助教授、そののち北大に。著書は「監査論」（中央経済社）をはじめ多数。また本学以外でも様々な教員、委員としてご活躍中です。

先生とのお話の中で「昔は結婚式などで再会の機会もあったなあ」と言われたのが妙に残りました。ここを巣立った約200名の皆さん、先生は皆さんからのお声掛けを待っていらっしゃいますよ！





ゼミ紹介 第6回

五十嵐ゼミ

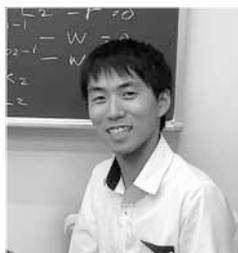
— マクロ経済学、
ファイナンス(資産価格理論)
五十嵐 洋介准教授 —

① ゼミ紹介

□自ら学ぶ

初めまして。五十嵐ゼミの紹介をさせていただきます、東昇吾です。この度、このような機会を与えていただいたことを光栄に思います。

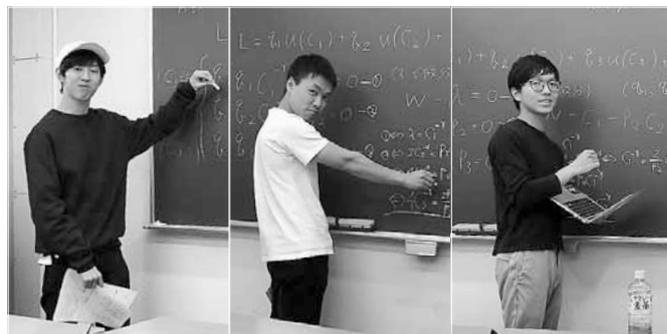
私たち五十嵐ゼミで扱うテーマは、「マクロ経済学とファイナンス」です。このテーマはとても大きいもので、私たちは様々な理論やデータの分析の仕方を勉強し、それに基づいてマクロ経済ニュースやマーケットの動向について考えられるように、4年生5名(うち留学生1名)と3年生6名の計11名で、活動しています。それでは、ゼミの特徴について述べていきます。



まず1点目に、「自分たちで進める」ということです。私たちは基本的にExcelやRでのシミュレーションや発表をグループに分かれて行っています。そして毎回、持ち回りでの発表という形式です。その上でそのシミュレーションについて検討したり、議論をしたりするときは、基本的に先生に頼らずに学生が進んで議論を展開するように意識しています。そうすることで、考える力を養ったり、発表の仕方や進め方を聴衆がよりわかりやすいように練習できたり、より集中力を持ってゼミに臨めるようになっていきます。この雰囲気をこれからも守っていきたいです。

また、学生と先生の関係も私たちは大切にしています。先生は議論にはあまり参加しませんが、その分私たちのことをよく見て下さっているので、困っている時はいつも助けてくれます。さらに、先生は多彩な趣味を持っておられるので授業の初めには楽しく色々なお話をしています。先生と学生の間の親密な関係もこのゼミを語る上で欠かせません。

2点目は、「年齢関係なく仲が良い」ということです。グループに分かれて発表すると述べましたが、グループは3年生と4年生がそれぞれ同じ人数になるようなグループ分けをしています。また、先生が議論にあまり参加しない分、お互いがコミュニケーションをとる量がとても多いので他のゼミよりも仲が良いのではないのでしょうか。年齢関係なく仲が良いことで、3年生もわからないことがあったり、悩み事があったりしたときには、すぐに聞ける環境が整っています。



□みんなでゼミを作っていく

ここまで五十嵐ゼミの特徴を少しばかり述べさせていただきました。しかし、このゼミはどんどん変わっていきます。実はこのゼミは創設2年目になります。私は1期生です。先生も北大に赴任されて2年目になります。ですので、先生と学生が一緒になってよりわかりやすく学ぶにはどうすれば良いか、毎回試行錯誤しながらゼミを進めています。初めは輪読をしていましたが、経済学の理論は輪読だけではうまく理解することができなかつたので、シミュレーションを考えるというやり方になりました。このようにやり方を変えていくことで、よりわかりやすく楽しいゼミになるよう試行錯誤を続けています。

また、ゼミのイベントも色々と考えています。飲み会はもちろん、最近ではゼミ同士の合同ジンパも開催しました。学生や先生がそれぞれ意見を出し、実際に開催に向けて準備を



進めています。冬にもスキー・スノーボード合宿を計画しており、ゼミ生同士や先生との関係がより親密になるよう日々努めています。

このように、五十嵐ゼミでの活動がより良いものとなるよう先生、学生が一体となって様々な活動に取り組んでいるのが魅力だと考えます。

② 五十嵐先生のコメント



経済学は、目的や方法論を悟りにくい学問分野だと思います。せっかく色々な科目を履修しても、それがどう役立つのかよく分からないまま卒業していく日本の経済学部生のなんと多いことか。

その点、本ゼミのテーマであるマクロ経済学とファイナンス（資産価格理論）は、数学、統計、計量、ミクロ経済学など多くの科目を利用するので、各科目の用途を理解するにはもってこい입니다。そこで、ゼミの一つ目の目標は、今まで様々な授業で出てきた知識を、コンピュータを使った演習を通して定着させ、結びつけることとしています。演習中、学生たちが知恵を出し合いながら正解に近づいていく様子は見ていて頼もしいものです。

本ゼミの二つ目の目標は、データ分析能力を身につけること。巷で言われていることは本当に正しいのか、データを見、統計的な分析をほどこして検証できるようになること。現在はそのための訓練をしています。

私は以前、ハリリー・ポッターの著者の出身校として知られるイギリスのエクセター大学で講師をやっていました。イギリスの大学には「全学教養課程」はありません。経済学部の学生たちは入学直後から統計学や経済学を叩き込まれ、三年間の専門漬けののち卒業します。GPAが就職に直結するので、学生にとっては良くも悪くもテストの点数が大事。ゼミのようなものはありませんでした。世界中から来た学生を教えられるのは楽しかったのですが、ゼミがないのは物足りなかったですね。

イギリスは大好きでしたが、北大の魅力に誘われてやって来たのが二年前。ですから現在の4年生が第一期生です。無名だった私のゼミを選んでくれた今の4年生には大変感謝しています。3年生も含め、真面目で面白い、雰囲気イケメン揃いのゼミです。（と女子学生にも宣伝しておきます、ゼミ生のみなさん！）

試行錯誤は続いています。だんだん目標に近づいている手応えを感じています。ですからゼミ生のみなさんには、これからもわいわい楽しみながら学んでいてもらいたいですね。

③ 学問内容

私たちは経済学部で学ぶミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンス、統計学など様々な学問を網羅した内容を学習しています。今年度に入って取り組んだ課題としては、①飛行機のオーバーブッキングを想定したチケットの最適販売数の推定、②22社の株式リターン推移データをもとにしたモメンタム戦略の評価、③独立な2つの自己回帰モデルの有意な関係性推定、④純粋交換経済の均衡の数値計算などといった課題をグループ分けして問題を解きRによるシミュレーション

方法の発表を行いました。例えば①の例においては、個人々の搭乗確率、搭乗券料金、オーバーブッキング発生時の補償料金をもとにチケット販売数ごとの期待収益を求めて、グラフを描き、期待収益が最大化される点を求めるといった方法で問題を解きました。問題の解き方を3・4年生が協力して考え、Rの使用方法は4年生が3年生にレクチャリ、発表資料作成に当たっています。今後発表資料を修正し、ゼミHPに公開する予定です。昨年度も「二項ツリーモデルによるオプション価格付け」や「ポートフォリオの平均分散分析」にグループごと取り組み、発表し、ゼミHPに資料、Rコードを公開しています。このように身近な例から、経済学・統計学などの学問的内容について実践を通じて理解を深めることができます。今後はインターネット上などで公開されているデータを自分たちでダウンロードし、政府や自治体が発表している資料のデータは妥当かといったことや、国会などで議論されている議題についてデータ分析をもとに自分たちの意見を述べるといった取り組みをしていきたいとも考えています。ゼミの活動を通して、リサーチクエストを立てる癖、問題解決のプロセス設計、Rスキル、データ分析スキルなど様々な力が養われてきているのでとても充実したゼミ生活を送ることができています。



④ ゼミ訪問記

ゼミ室に入るや男ばかりそれもシャイで無口、まず殺風景な空気に圧倒される。

さっそくお若くてスタイリッシュな五十嵐先生が優しく招き入れてくれた。

渡されたのは関数で埋められた資料。この時点で私はお手上げなのだが、今日のテーマは「効用最大化問題」だ。

ゼミ生は先生から与えられたヒントをもとに目のパソコンを操作しながら鮮やかに課題をこなしていく。

そのあとで指名された学生が入り替わり黒板に解の数式を並べて説明する。

初めに持った印象とは違い、発表者は皆明るくて笑顔も素敵な青年たちだ。

休憩タイムで先生から回ってきたお菓子を食べながらゼミ生に聞いてみた。

「皆さんは数学がお得意ですか？」「女子に入ってほしいですよ？」

どちらの質問にも全員が照れながらも大きく頷いたのは言うまでもない。

五十嵐先生は東大（学士、修士）を卒業後、ペンシルバニア州立大（PhD）、2012年から5年間英エクセター大学BS講師を経て北大に。

これまでのゼミの企画にはOB・OGのコラムがあるが、五十嵐ゼミはこれから。持ち前の情熱で北大に新しい風を吹き込んでいただけるものと思う。



受賞の喜びと 感謝の思い

赤井 翔太
(平成31年卒)



ふるさと納税における自治体間での 税収移動と返礼品の意義

～全国1741市町村に関する実証分析からわかること～

この度は、北大経済学部特選論文同窓会長賞を頂きまして、誠にありがとうございます。このような名誉ある賞を頂けることを誇りに思います。今回の記事では、簡単ではありますが、卒業論文の内容の紹介と、その執筆動機、また論文執筆から学んだことを紹介させていただきたいと思います。

最近耳にすることも多くなったこの「ふるさと納税制度」とは、自分の選んだ自治体に寄附(=ふるさと納税)を行うと、寄附額のうち2,000円を超える部分について、所得税と住民税から原則として全額が控除されるものです。控除を受けるためには、ふるさと納税をした翌年に、原則として確定申告を行うことが必要となります。制度創設後7年間ふるさと納税はほとんど活用されていませんでしたが、税制改正による控除上限額の拡大、確定申告の簡素化、民間事業者による「ふるさと納税サイト」の整備が進んだことにより、平成27年度以降大幅に利用が広まりました。

近年ふるさと納税については、世間一般にその制度が浸透しつつあり、利用者も増えてきているように感じられます。新聞やビジネス雑誌等では、返礼品を中心とした特集記事が組まれるなど、ふるさと納税という言葉を目にする機会も多くなってきたのではないのでしょうか。一般的に、これら納税者側の視点に立った理解や分析は近年多く進んできたといえる一方で、税金を取り扱う自治体側からの考察はあまり行われていませんでした。そこで、卒業論文の執筆に当たり、世間一般的によく行われている納税者側からのふるさと納税制度の考察を行うのではなく、自治体側の視点に立つてふるさと納税制度の検討・考察を行ってみたいというのが、このテーマを選択した動機です。

卒業論文では、まず始めに、ふるさと納税制度の設立に際し、目標とされていた「都市部と地方での税収格差の解消」が実際に達成されているかの検証を行いました。具体的な検証方法としては、人口の多寡とふるさと納税額流入額との間にどのくらいの相関関係があるのか、統計的な検証を試みました。その結果、人口の多い市町村から人口の少ない市町村へ税収が移転されていることがわかり、当初の目標は達成されていることが検証できました。

次に、返礼品とふるさと納税寄付額の関係性について考察を行いました。一般的に、高級な(すなわち返礼割合が高い)返礼品を用意すると多くのふるさと納税寄付金が集まると考えられがちですが、検証の結果、高級な返礼品は寄付件数の増加には寄与しているものの、寄付額の増加とは関係していないことがわかりました。

以上を踏まえて、卒業論文の最終章では、高級な返礼品が制度を歪曲していないかを検証しました。上記の検証で取り上げた、目安を超える返礼割合の返礼品に関する影響を除外したところ、「都市部と地方での税収格差の解消」の解消がより進むことがわかり、この点返礼割合の適正化を進める総務省の取り組みは意義があるということが出来ます。

なお、ふるさと納税は現在も変革を遂げ続けている制度であり、上記の内容は卒業論文執筆時点の情報に基づくものである点、ご留意いただきたいと思います。

この卒業論文執筆を通じ、学んだことは多くありました。特に感じたことは、「世間一般で正しいと思われることが、本当に正しいことがなのか、自分の目で確かめる姿勢」の重要性です。今回の卒業論文で取り上げた返礼品に関しても、総務省が公表している返礼割合の目安を超えた、高級な返礼品ばかりがニュース等でクローズアップされる傾向にありますが、上記で検証した通り、自治体への寄付額増加とは相関がないことは客観的なデータから明らかです。このように、世間一般で持たれているイメージをただ鵜呑みにするのではなく、疑問に感じたことは自分で確かめてみるという姿勢を、今後も持ち続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、北大経済学部という、恵まれた環境、たくさんのお出会い、そして自然豊かなキャンパスに感謝致します。社会人生活はまだ始まったばかりですが、精一杯頑張っていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



同窓会サポート企業

SALAT 株式会社 サラト

■本 社

兵庫県姫路市北条宮の町172
〒670-0948
Tel.079-284-1380

■東京支社

東京都台東区台東4-18-7 シモジンビル5F
〒110-0016
Tel.03-3832-6381



<http://www.salat.co.jp>

就職状況

就職戦線、異常なし

- 氷河期がウソのような求職環境が続いている。今の学生の悩みは複数もらった内定先へ断りの連絡をすることと言っても過言ではないようです。
- 昔とは比べものにならないほど容易に情報が手に入る環境で、若者の就職先選択の基準も益々多様化しています。“指定席”の大企業や官庁がある一方で、毎年カタカナ、アルファベットで記載する企業数が増えています。
- 北大経済はマンモス私大に比べOB・OG数ではありません。ビジネスや会合で会われた時は先輩として温かいお声掛けと励ましの言葉をお願いします。

【5名】 札幌市

【4名】 トヨタ、デロイトトーマツG

【3名】 新日鉄住金、ニトリ、北電

【2名】 ブリジストン、日立、日鉄住金物産、三井住友銀、日銀、北洋銀、北國銀、大和証券、KMPCあずさ、EY新日本G、NECソリューション、アクセンチュア

【1名】 明治、サントリー食品、紀州馬吉農園、アンデルセン、広栄堂、VITABOOM、エアウオーター、帝人、旭化成、住友化学、旭化成建材、東洋ゴム、エネオス、IHI、住友電工、古河電工、古河産業、デンソー、デンソー北海道、YKKAP、JFEスチール、JFEエンジ、NOK、内田鉄鋼、日立金属、ソニー、パナソニック、三菱電機、錦戸電機、村田製、キヤノン、キーエンス、三菱商事エネ、

三井物産、双日、兼松、セコマ、丹波屋、ゼンリン、鈴与、フォーティセブン、三菱UFJ銀、みずほFG、りそな銀、あおぞら銀、国際協力銀、農林中金、三井住友信託銀、日興証、大和証券信託委託、碧海信金、日本政策金融公庫、かんぽ生命、三菱倉庫、京阪ホールディングス、三光不、大東建託、武蔵コーポ、ベンG、名鉄、セコム、東芝エレベータ、JCB、NTT東日本、Geely、JRA、ヨークベニマル、マックスバリュ、日本調剤、コープさっぽろ、イオンモール、リヒトラブ、ラウンドワン、Pwcあらた、R-field、クリオサイトテク、ヤフー、時事通信、テレビ北海道、日本IBM、電通システム、RPA、SCSK北海道、SevenRich会計、パソナG、セントラルスポーツ、フュージョン、フューチャーアーキ、ビットエー、マクロミル、ペイカエレントコンサル、インクルーシブ、ソフトバンク、トランスコスモス、デジタルアドバタイジング、グローバルパートナー、新日鉄ソリュ、マイナビ、アイティーエックス、十勝経営研、ニンニドット、華岡青洲記念病院、あくびG、北ガス、四国ガス、道建設業信用保証、道農協連合会、となみ農協、東大、長崎大、千葉経済大、日本自動車連盟、札幌市芸術文化財団、財務省、年金機構、国税庁、東京国税局、総務省、大阪地裁、JR北海道、東京都、栃木県、静岡県、石川県、千葉県、帯広市、航空自衛隊

恩師の異動

平成31年 3月

助教 菊地 雄太
早稲田大学大学院
商学研究科 講師へ

助教 鈴木 広人
城西国際大学
経営情報学部 准教授へ



札幌／心の里定山



おかげさまで50周年
温泉宿三館とギャラリー&足湯など

これからもふる川をお願いします!

2019年8月フロア8階オープン

37年卒 古川善雄
株式会社ぬくもりの宿 ふる川

札幌市南区定山溪温泉西4-353 / TEL011-598-2345



東洋古美術
「中島文庫」

札幌／ぬくもりの宿ふる川



白老／海の別邸ふる川



小樽／運河の宿ふる川





— 同窓生の近況 —

「よさこいソーラン祭り」 立ち上げが人生の転機

長谷川 岳 (平成6年卒)



脚本家倉本聰先生のテレビドラマ「北の国から」を小学生の時に見てからずっと憧れていた北海道。愛知から親元を離れ1990年4月、北海道大学文Ⅱ系（現在の経済学部）に入学しました。真野脩先生のゼミに所属し、非営利組織NPOの経営論を学びました。増毛から約100キロ離れた札幌まで野宿しながら歩いたり、札幌から小樽まで歩いてみるなどヒッチハイクやキャンプ、登山と北海道の自然を満喫した学生時代でした。人生の大きな転機は大学3年、当時の学生仲間5人で立ち上げた「よさこいソーラン祭り」です。「街は舞台だ！日本は変わる」を合言葉に、学生実行委員150名で第1回を開催。以降、毎年6月に開催し現在では観客200万人強の北海道有数の観光資源となりました。祭りを始めたきっかけである「自分が住んでいるまちを元気にしたい」「人と人を結びつけたい」思いから自然の流れで政治を志すようになり、今は参議院議員として二期目を迎えました。北海道と日本の新たな時代を切り拓いていくため、日々全力で我が国を取り巻く諸課題に取り組んでいます。

で歩いてみるなどヒッチハイクやキャンプ、登山と北海道の自然を満喫した学生時代でした。人生の大きな転機は大学3年、当時の学生仲間5人で立ち上げた「よさこいソーラン祭り」です。「街は舞台だ！日本は変わる」を合言葉に、学生実行委員150名で第1回を開催。以降、毎年6月に開催し現在では観客200万人強の北海道有数の観光資源となりました。祭りを始めたきっかけである「自分が住んでいるまちを元気にしたい」「人と人を結びつけたい」思いから自然の流れで政治を志すようになり、今は参議院議員として二期目を迎えました。北海道と日本の新たな時代を切り拓いていくため、日々全力で我が国を取り巻く諸課題に取り組んでいます。

広島製の鉄所から北海道を熱く応援しています！

川原 朋也 (平成22年卒)

大学の4年間は大学祭実行委員会や北大生協学生委員会などのイベント運営とアルバイト（と学部での勉強）で過ごしました。卒業後はJFEスチールに入社し、以来広島県福山市の製鉄所に勤務しております。卒業して丸9年経ちますが、縁あって妻と2人の子どもと過ごしています。

経済学部では一時期「AO入試」を行っていましたが、私はそれで入学した一人です。生まれも育ちも北海道でして「北海道に貢献したい」と推薦文に書き、面接で話し入学しました。卒論テーマも北海道に関することでしたが、今の仕事は製鉄所内での管理業務であり、北海道とのつながりは皆無！「これで本当に良いのか」入社してしばらくは、大学と過去の自分に後ろめたさを感じていました。大好きな日本ハ

ムファイターズの応援で全国の球場に行くことが、せめてもの罪滅ぼしでした。

でもある時、大学時代から行きつけのお店で「たまに北海道帰ってきた時にさ、ススキノでたくさん飲んでお金を回していけば、それでいっしょ」と話を受け「それだ！」と気づきました。AO入試を受ける前に、社会科の先生が「北海道は域際経済が赤字」と言っていたことも思い出し、道外から持ってきたお金を北海道で使えば、道内経済に貢献すると気付いたのです。「金は天下の回り物」私は経済学部で何を学んだのでしょうか…スミマセン。

それ以降、帰省した時にススキノで飲む、お土産をたくさん買って職場や知人に配る、会社の人や道外の知り合いに観光スポットやおすすめのお店を案内する、デパートの北海道物産展に行く、SNSで北海道の気になるトピックを発信してみる…少しでも周りに北海道の良さが広まれば、自分なりの「貢献」になるかなと思って、個人的に活動しています。



面白がって生きている

西田 純 (昭和58年卒)



経済学部を卒業したのは、同期生に遅れること一年、昭和58年の春でした。米国・マサチューセッツ大学へ一年間の留学機会を得たことによるものでしたが、留学中

はお彼岸に牡丹餅を作ってクラーク先生の墓参りをしたり、ニューヨークに全米オープンテニスを見に行ったりと、アメリカ生活を大学生ノリで面白がって過ごしたことを今でも懐かしく思い出します。

その後、企業人として就職してからも卒に囚われることなく、人生を面白がって過ごしてきたように思います。国連機

関への転職とアフリカ駐在の経験、異国の地での子育ても得難い思い出となりました。コンサルタントとして独立して今年でちょうど10年になりますが、これまでに訪れた国は50を超え、国連時代のネットワークを生かしたビジネス支援もどうにか形になってきました。

お陰様で今年還暦を迎えるのですが、昨年は新規事業に挑戦すべく新たな会社を立ち上げることができました。相変わらず面白がって生きていられるのも、楽しかった北大経済学部時代が原点にあるからだと思っています。

「カルロス、深圳にいるよ！」

安住昌紀（平成11年卒）



今年で北大を卒業して20年です。住所も勤め先も変わり、あつという間の20年でした。

さて、北大時代の友人とは、会う機会も少なくなりましたが、今も大切な存在です。彼らとの最近のエピソードを1つご紹介させていただきます。

今年4月、私が深圳に出張中であることをSNSに投稿したところ、すぐさま仙台に単身赴任

中のHから、カルロスも深圳にいるよ、というコメントが。また、名古屋にいるEからは、カルロスとの連絡方法が届きました（注：カルロスは純日本人です）。私は中国出張の機会など滅多にないので、何という偶然！と、直ぐメッセージアプリでカルロスに連絡しました。すると、ほどなくカルロスから返事が。しかし、これまた何という偶然か、カルロスはちょうど日本に一時帰国中ということで、結局、会う事は出来ませんでした。

単にそれだけの出来事ですが、深圳と仙台と名古屋（カルロスの場所は不明。勤務先は名古屋？）の間で、4人がほぼ同時にこれほど簡単にコミュニケーションがとれるなんて素晴らしい時代ですよ！

思えば、北大に入った1995年は、インターネット元年と言われた年で、INSテレホーダイの超低速環境で夜な夜なインターネット見っていました笑。オフィスで「ピーガガガというモデム音懐かしくない？」と話すと、「へえー、そうなんですね。知らないです」と言いつつ愛想よく笑ってくれるアシスタントのKちゃん。そういえば、Kちゃんって94年生まれか…。ICTの発達と、部下との年の差に改めて気付いた出来事でした。

中国との相互理解をさらに

菅沼禎郎（昭和60年卒）

IHIという会社にて勤務し、中国駐在は累計で13年目とな

ります（現在3回目です在上海）。日本での中国に関する昨今の報道を拝見しますと、国家そのものにも、またその将来に対してもネガティブなトーンが目につくことが多いです。確かに日本の感性とかけ離れた部分も多い国ではありますが、学ぶべき点も多く有るように感じております。

“速くてドラスティックな変化”をWelcomeとする点や、“安定”には価値を見出さず、“発展”あるのみと考える積極的な発想の点などです。これらを逆に置き換えてみると、今の日本が抱える課題のようなものが見えてきます。一方で中国人の訪日観光者（リピーター）が年々増えているのは、日本が「ウソの少ない、安心できる隣国」であり、「日本人の親切さに触れると心が休まるから」とのことです。

中国は20世紀という彼らにとって暗黒の時代を経て、近代国家に恥じないよう変わっていくとしています。永遠に切り離せないであろう、長い歴史伴う隣国／友人として、お互いの良き部分を理解し学びながら、双方が共に発展していきたいと、両国架け橋であるべき役割の一員として日々全力を尽くす毎日です。



自転車通学の楽しみは 構内の四季の豊かさ

多田和美（平成22年 博士後期課程修了）

私は、2002年4月に経済学研究科（当時）の修士課程に入学し、2010年3月に博士後期課程を修了しました。大学院生活では、積雪期を除いて自転車で通学していました。当時は、現在のような20条東門は無かったのですが、その付近の出入口からキャンパスに入り、南北を縦断する形で経済学研究科へと自転車通学しました。その中で思い出すのは、キャンパスの自然の美しさです。春先には、自転車での道すがらに、ふとエゾエンゴサクの小群生を見かけ春の訪れを実感していました。また、夏には新緑に覆われたキャンパスでうっそうとした樹木の匂いを楽しみ、秋には黄金色のイチョウ並木やその他、色とりどりの紅葉を横目に通学しました。こうして日々自然に触れられることは、大学院生活の大きな楽しみでした。

この自然の美しさは、北海道大学で学び、働く、学生・教職員の皆様の貴重な財産の一つだと思います。大学院時代から今日に至るまで大変お世話になっている指導教授の先生をはじめ関係各位の皆様へ改めて感謝申し上げるとともに、自然豊かなキャンパスと北海道大学のますますのご発展をお祈り申し上げます。（事務局注：現法政大学准教授）



悪夢も贅沢も… いろいろあった北欧留学

佐野 裕典 (経済学院2年)

学部時代の念願叶って北欧留学をすることになった。ただ、留学条件である授業数や在留許可の申請、鬼のように難しい期末レポートに追われ、準備期間わずか3日という短さで北欧に旅立った。夢見た留学は、行きの飛行機内で隣の子供に夕飯をひっくり返され、逆隣のおじさんにはイヤフォンを盗られるという前途多難の幕開けで始まり、現地で調達した炊飯器(中国製)の爆発と変圧器の故障と続いた。学期が始まれば、言葉が分からない、授業は難しい。4年間も夢見た留学は悪夢へと変わった。ポロポロになりながら1年間戦い抜いたが、得たものは意外と少なく失ったものは予想以上に多い。しかし、約1年間を研究にのみ費やすという贅沢は今後得られるものではない。最先端の研究論文をチームで議論したり、生のデータを用いて研究結果を複製したりなど。研究大好き人間の私には考えられないくらいの贅沢だった。また、授業では批判や議論の仕方を習い、人生においては自由であることの大切さを教わった。そんな留学から帰ってきて数か月、帰りは無事に帰ってきたが、日本では窮屈さを感じる事が多く、今では留学時の自分を羨望の眼差しで見ている。

米寿の今も 囲碁の普及に奮闘中

我孫子 健一 (昭和29年卒)



今年の6月で米寿を迎えました。永らく勤めた北海道庁を退職し、新千歳空港のターミナルビルを運営する北海道空港株式会社勤めておりましたが、15年前に退職いたしました。

たまたま、囲碁が私の趣味であった関係で、日本棋院北海道本部(囲碁の団体)の理事長を引き受けることになりました。

昨年、理事長を退きました

が、囲碁は続けております。

北大では、今年度から囲碁を教養課程の教科に取り入れられました。私も北大OBとして、その実現のため努力をさせていただきました。

昨年久しぶりで、北大キャンパスを訪れました。

故郷に帰ってきたような安らかな気持ちになりました。

北大経済学部同窓会は、関係する皆様のご努力で、益々充実し、すばらしい活躍をされており、同窓の一人として慶びにたえません。

経済学部同窓会が、これからも、更なる発展を遂げ、その存在感を永えに示していただきますよう祈っております。

(事務局注：元北海道副知事、第9代経済学部同窓会長)

大切にしたいゼミでの経験、 恩師との絆

岡田 雅文 (平成29年卒)



昨年の同窓会報で、私が所属していた松尾ゼミが紹介されていました。卒業してはや2年、ゼミで重視していることをはじめ変わっていない面もありましたが、合同ゼミの相手

などもうすでに変わっていることも多く、まさしく「成長するゼミナール」だと感じました。

特に気になった点として、「今日はフルメンバー(14人)が出席、しかもその半数が女性という華やかさ(さすがイケメン・松尾先生)」という記述がありました。私たちの一個上の代は女子3人、私たちの代は女子2人、一個下は女子1人と女子の比率が少なかったのに、同じイケメン・松尾先生なのに、なぜこんなに増えたのかと疑問に思いましたが、ポジティブな答えにならなそうだったので、深く考えるのは止めました。

私自身、卒業後は経済学院とは別の大学院に進んだのですが、その後も松尾先生に研究に関連することをメールで相談したときには快く対応していただき、本当に助かりました。現在社会人1年目として仙台で仕事をしているなかで、松尾ゼミでの経験は、私の人生のなかで誇れる経験のひとつとなっていると実感しています。

富山県に、世界一美しいと評判の スタバがあるのをご存知でしょうか?

仁木 良市 (昭和61年卒)



富岩水上ライン32万人目のお客様に記念品を贈呈(2019年3月)

前回の富山県庁入庁後の近況報告から、はや13年が経過し、その間、東京事務所、知事政策局、観光・地域振興局、厚生部などで6箇所の職場を異動しました。今回は、この3月まで携わっておりました富山県の新たな観光スポットについて触れたいと思います。

2015年3月に北陸新幹線が開業し、東京富山間が約2時間で結ばれ、その富山駅(北口)から、徒歩9分のところに冒頭に紹介した

スタバ(全国で初めて都市公園内に店)のある富岩運河環

水公園があり、連日多くの国内外からの観光客で賑わっています。この公園は富岩運河（延長5.1キロメートル）の最上流部の舟だまりの部分公園としたもので、ここから北前船で栄えた港町「岩瀬」まで、現在「富岩水上ライン」として4艇が運航しています。とりわけ、途中の国指定重要文化財「中島閘門」（2.5メートルの水位差を調整するためパナマ運河方式を採用）は水のエレベーターとして人気です。

富山と言えば、立山黒部アルペンルートや世界文化遺産「五箇山の合掌造り集落」といった観光地が有名ですが、この街中にある「富岩運河環水公園」にも是非お立ち寄りください。また、富山は食べ物も大変おいしく、富山の米と魚（シロエビなど）を使った「富山湾鮎」は近年大好評です。因みに「美味しんぼ」84巻は富山編で私も登場しています。

個人的に、インスタやフェイスブックでも情報発信しておりますので、ご連絡、富山へのお越しをお待ちしています。

「北大での留学生活」

— 夜の研究室と通学路は一生の思い出 —

黄 ボク 寒 （平成29年 博士課程修了）



中国の大学を卒業後、右も左も分からない場所での生活に多少の不安を持ちながら、留学生として北海道大学に来ました。北海道大学はイメージ通り、穏やかで居心地の良い場所でした。初めの頃は慣れない授業や環境に戸惑いもありましたが、周りの方々に助けられ楽しい留学生活を送ることができました。

留学生活の中で印象に残っているのは、夜の研究室と毎日通る通学路ですね。院生の頃は夜型で、朝まで研究室にいる日が多く、その静かで誰もいない空間が大好きでした。そして、夜が明けると、経済学部、法学部、文学部、教育学部の廊下を通り外に出て、そこからまっすぐ歩いて北10条あたりの門をくぐって帰宅します。その通学路では、春は立派なしだれ桜が綺麗に咲き、秋は栗や胡桃の木から実が落ちて来ます。冬になると、雪で辺り一面が真っ白となり、ギシギシ音を立てながら歩くのが楽しかったです。そしてたまに、犬かキツネか分からないが、すごいスピードで走っていく動物を見かけます。この道を通るたびに、北海道大学の自然の豊かさを感じていました。北海道を離れて早くも3年になりましたが、この静かで落ち着く夜の研究室と帰り道は、一生の思い出になります。

地酒を求めて 「みちのく放浪記」

富森ゼミ 横田 実 （昭和49年卒）

数年前から友人と「みちのく研究会」なる集まりを作り、

毎年、東北を旅しています。地酒と温泉に恵まれているので東北に。（不謹慎で東北の方々にはスイマセン）去年は山形県へ。羽黒山麓の宿坊に泊まり鬱蒼たる杉木立の中、2446段の石段を登り印象深い旅でした。今年岩手県へ。宮沢賢治も来たという「大沢温泉」、谷川沿いに湯壺が散在する山深い湯治場「夏油（げとう）温泉」、標高千百の「須川高原温泉」の野趣あふれる露天風呂を楽しみました。もちろん南部杜氏仕込みの地酒もしっかりと堪能。帰りに寄った八戸の昭和レトロな横町の飲み屋で出会った「えんぶり」、「三社大祭」（いずれも国の重要無形民俗文化財）の関係者との語らいも思い出深い。後日作る記録動画はカンヌ映画祭出品作とはいえませんが、毎回好評で家内も我らの珍道中の様子を大笑い。この大人の修学旅行も来年は番外編として熊野古道を歩くことになりそう。「ルバイヤート」持参で銚子を傾ければ、旅の趣向もいや増すというもの。



審査クリアし、 晴れて東証一部に昇格

猪 又 将 哲 （昭和62年卒）



2004年刊行の第20号に寄稿させていただきましたが、事務局より依頼されましたので、15年ぶりに近況報告を申し上げます。

学生時代は体育会ヨット部に所属しており、シーズン中は小樽にばかりいて、大学には顔も出さず…という生活を送っており、お世辞にも勉強したとは全く言えませんので、寄稿させて

いただくのは心苦しく思っております。

今の会社を創業して15年半を超えたところです。昨年3月23日に東京証券取引所マザーズ市場に上場し、今年の6月14日に同取引所第1部に市場変更をさせていただきました。現在（6月15日現在）、地元貢献の意味からも札幌証券取引所への上場申請を準備しているところです。

昨今の株式上場申請における審査は、コンプライアンスやガバナンス（企業統治）が特に重要視されるため、ゼロベースから会社を変える必要があり、いろいろと大変でした。しかしながら、企業にとって企業統治力を高めていくことは非常に重要な課題です。学生時代に勉強しなかったツケが今頃回ってきたと考えて、経営者としての勉強に励みたいと思っております。（事務局注：株式会社ファイバゲート <https://www.fibergate.co.jp/>）



東京同窓会会長挨拶

永松 昌一
(昭和57年卒)

昨年、陣屋先輩からバトンを受け継いで北大経済学部東京同窓会会長に就任いたしました昭和57年所ゼミ卒の永松昌一です。現在野村ホールディングスの取締役副社長の職にいます。

どうも過去から透明・公正なルールに基づいて決定しているわけではないようで、元サッポロビール管絃さん、元野村総研の早野さん、陣屋さんら諸先輩に囲まれて気が付けば会長に押し出されたような次第です。

卒業以来、真剣に北大卒という意識を持たず前だけ見て走りながら考える生活をしてきたので、既に60歳を過ぎ社会人終了間際に役に立てることがあれば微力ながらお手伝いしようかと思っています。

私自身、高校までの大変温和な気候の小田原（神奈川県）での生活から否が応でも真剣に働かざるを得ない社会人になるまでの貴重な四年間をどこで過ごすかという選択の中で、無事に北海道を選ぶことができ希望通りの誰からも拘束されない自由な時間を過ごすことができました。今にして思えば四年間の学生生活に今くらいの緊張感をもって具体的に取り組めたら違った生き方ができたかなと思ひ反省しています。

昭和57年野村証券に入社してから昭和末期のバブル期を経て平成の30年間を走り抜け、今や令和を迎えています。上場企業の方々と25年間お付き合いし、投資会社を5年間担当し、加えて入社した時の個人営業、7年前からコーポレート全般の担当として今に至っています。

1989年バブル崩壊前の時価総額トップテンには、六行の都銀と野村証券、東京電力・トヨタ・NTTが入っていましたが、2019年5月令和に入り時価総額の上位は、トヨタ、NTTは変わりませんがソフトバンク・キーエンス・ドコモ・ソニー・ファーストリテイリング・武田・リクルートが名を連ねます。時代の変遷を感じます。世界のモノ作りの中心が、産業革命以降欧州から米国に移り、その後日本に移り韓国、中国へと変遷し今や各地域・各国が自国保全に向かう機運が高まっています。

各企業は、時代背景に合わせて変わらざるを得ない、もしくは自分で新たな領域を開拓して生き残りを図る必要があると思います。企業同様少子高齢化、人口の都市部への集中の日本では、大学も役割・存在意義も大きく変わらなければならないステージにあることはご存知の通りです。

企業でも大学でも、それぞれのテーマは一緒かもしれませんが、大学の数が多過ぎないか？大学は世の中の為に何をするのか？特徴・差別化できることはあるか？海外と比較してレベルは？海外との連携は？

経済界では2000年頃に変革する時期があったように思いますが、素材・バイオを除き殻に閉じこもりM&Aはあまり起きませんでした。各業界世界で戦える状態です

たが変化を嫌ったために出遅れ一気に衰退した企業が多数あります。

厳しいようですが結果が全てです。

また、現在の若手の方々、これから世に出る学生の方々は、個としての能力が問われる時代になっています。日々研鑽して国内外の違った人格・価値観の方々とふれあい新たな自分を見つけ成長して欲しいものです。個のバリューを向上させてこそ集合体である組織のバリューが上がります。

北大でも昔なかった新しい試みをたくさん行っていますので是非応援したいと思います。発想を変えて卒業が難しい大学になったらどうでしょう。

世の中では、ESGとかSDG'sとか世界中の人々が幸せになる目標として掲げられています。貧困・飢餓の解決や環境の保護、豊かな暮らし等を実現することを目標と定められた17の目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットから構成されています。

法人としてはまずは自分が関わることから、また個人としても身近なことからできることからコツコツ始める必要を感じています。

文化を創るにも維持するにも超富裕層が個人の好奇心・満足を得ようとするエゴがないと実現しないし、文化遺産として残りません。社会保障を偉そうに議論しても税金を払ってくれる人に思いが至らなければ全く意味がありません。お題目だけ唱えても何も実現しません。お金に関わることを避けることなく、世の中への貢献ができるバランスのいい人材が育ってくれることを希望しています。

Boys, be ambitious **for money**, not for selfish aggrandizement.

も必要なことだと思います。

OBの方々は、是非フロンティア基金に協力しましょう。

大学、学生は甘んじることなく、世の中で通用する、勝てる研究、人材になってください。

年を重ねるにつれ、大学の同窓会の誘いに加え高校の同窓会の声がかかり、今や中学の同窓会のお誘いまで来るようになりました。どの世代も大事ですが、東京で30年以上働いているとやはり北大の卒業の方々の活躍は嬉しくなるものです。

現役の社会人には時間を創ることが難しいでしょうが、縁とか絆を大事にして輪となりましょう。



OBブログ紹介 (<https://www.yamamototetsu.com/>)

世界を旅しながら 働いた3年間

ブログにとどまらずツイッターにおいても、海外ノマド情報を中心に旅行、生き方、投資、語学学習、スタートアップなど幅広いコンテンツを発信し続ける「テツヤマモト」さん。そのバイタリティとアイデアはとどまるところを知らないようです。事務局の求めに応じ「世界を旅しながら働いた3年間」と題し寄稿いただきました。



山本 哲
(平成28年卒)

平成が終わり、僕は社会人生活4年目に入りました。大学卒業後には「とりあえず3年は働け」なんて言われたものですが、あいにく僕は家族や周りの先輩のアドバイスに聞く耳を持つことはできませんでした。この3年間は、新卒で入社した会社は5ヶ月で辞め、個人でウェブサイト運営をして生計を営んできました。同時に、36ヶ国を訪問する世界一周の旅をし、5ヶ国で留学生活を送る自由な生活をしてきました。現在も個人事業を行いながら、年間300日以上を海外で過ごしています。

なんだか「これだから“ゆとり”は…」と言われそうな締まりの無さですが、僕のような働き方は、むしろこれからの世代で「普通」となるように思います。恐れ多くも寄稿させていただくにあたり、学生時代から社会人4年目に突入した僕の現在までを振り返り、同世代が抱える価値観を皆さんにシェアできればと思います。

●在学中に広告ビジネスを手掛け、そして海外へ

さて、学生時代を振り返ると、僕は「手際よく単位を取って、残り好きなことに費やす」といった、要領だけは良い学生だったように思います。3年生までは所属していたよさこいソーランチームの活動に自分の時間を捧げました。日本全国のお祭りを飛び回った日々は、僕の原体験となり、やがて「各地を飛び回りながら働きたい」と考えるきっかけになります。学業の面では必要単位を3年時で取得し終えたので、時間が有り余った4年時は、自分のウェブサイトを立ち上げて広告ビジネスを開始しました。好きなテーマを取材し、毎日のように記事を執筆したように思います。その成果もあって、卒業時には毎日5,000もの人が訪れるウェブサイトになり、個人事業の売り上げで生活できる水準に到達しました。

卒業後は、道内の出版社に雑誌記者として就職し、目標であった「各地を飛び回りながら働く」ことが実現しました。しかし、学生の頃のように好きなテーマを取材・表現したい思いが日に日につもり、半年も経たずに独立してフリーライターになったのです。北大卒の新入社員ということで、社長はじめ、先輩方に寄せていただいた期待を裏切る形になり、申し訳なく思いました。それでも、自分の心の声以上に優先すべきものはないと判断し、素早いキャリア転換を試みます。

独立後は道内を転々としながらフリーライターや、学生時代から続けていたウェブサイトでの広告ビジネスを続けて生計を立てました。継続の成果が、数ヶ月後には収入の目処が立ち、2017年からは日本を飛び出し、海外各国への取材を始めます。パソコン一台で仕事ができるので、日本に住む必要もなく、むしろ生活費の安い東南アジアで生活した方が節約になると考えたのです。それに、学生時代に海外旅行や留学をしていなかった心残りもありました。世界を旅しながら働くことは、今や決して難しいことではありません。それでも若い世代ではまだまだ前例が少なかったことで、自分が開拓者のような存在になれればと、意気揚々と旅に出ていきました。



●世界一周で知る価値と経験

2年に及び世界一周の旅は、あらゆる発見に満ち溢れていました。アジアでは、一般的に発展途上国と言われる国々をたくさん巡りましたが、考えていたよりも大規模で洗練された街が多く驚きました。反対に、ヨーロッパを訪ねた際には、人種が入り混じったグローバルな環境や、マイノリティへの多様性理解、先進的なIT技術やキャッシュレス文化など、どこを見渡しても日本の数年先を行っているような感覚を得ました。また、旅の後半に訪れたメキシコは、「移住したい」と感じるほど好きになりました。日本に住んでいると「ここがすごいぞ！ニッポン！」といったようなテーマのテレビ番組などを見る機会も多いですが、自分の目で見てみると、果たしてどうなのかと疑問に思ったほどです。旅の最中には、観光や取材だけでなく、インド・フィリピン・グアテマラ・スペインにて語学留学、タイではIT技術を学ぶために留学しました。好きなことにたっぷり時間を使えるのは学生時代だけなんてことも言いますが、むしろ僕は社会人になってからの方が自分の興味があることに打ち込めています。勉強方法や留學生活情報を記事として執筆することで、ライター活動、ウェブサイト運営にも効果があり、まさに一石二鳥です。



2年間の世界一周後、2019年に入っても、僕は海外滞在の居心地の良さを感じ、各地を転々とする生活を今も続けています。紹介が末尾となりましたが、詳細は僕のブログ「おもしろハンター」をネット検索していただければ、現在の活動が垣間見れます。ほんの少しでも世の中に影響を与えられたのかは定かではありませんが、自分のように、海外を拠点に個人で生計を立てる若者も、ますます増えているように感じるこの頃です。

●「心躍る選択」にしたがって、これからも

最後になりますが、実は僕自身は、今後この世界を旅する働き方を続けていこうとは考えていません。海外旅行にも満足してしまったり、何よりも自分が培ってきた経験を、違う分野にも生かしたくなりました。次の目標は、世界を舞台に活躍するビジネスパーソンになることです。具体的には、今後アジアから世界的な企業が登場してくると予想しており、そういった企業に一人目の日本人として加わられるような人材を目指します。

僕はどんなときも周りの忠告やアドバイスは上手に聞き流し、「たった今、自分が心躍る選択はどれか？」を基準に行動してきました。今ある仕事が数年後には無くなっているのが当たり前だからこそ、耳を傾けるべきなのは自分の声でしかありません。たとえあなたのやりたいことや進みたい道が、人から珍しがられる生き方・働き方であっても、ひるむ必要は無いのです。もちろん、僕のように世界を旅しながら働いていても面白い体験になりますし、実際今後の人生の大きな糧となりました。どんな時も自分にしか答えはわからないと心に刻み、残りの20代、そして30代へと全力で駆け抜けたいものです。





文系4学部合同東京同窓会を初開催 今年は10月11日に行います!!!

東京同窓会事務局長
菅 堃 誠 (昭和52年卒)

●昨年のご報告

昨年10月17日新宿ライオン会館にて文系4学部合同東京同窓会が開催されました。

札幌では既に数年前からホームカミングデー時に文系4学部合同の同窓会が開催されていますが、東京では従来から隔年開催の法・経合同東京同窓会を発展する形で初めての開催となりました。



当日は4学部全ての同窓生約70名に加え、本学から長谷川晃副学長、加藤智章法学部長・法学研究科長、平本健太経済学研究科長、平本健太経済学研究科長 (S62)、杉江和男東京同窓会会長 (S45応化院) も加わり、賑やかに開催されました。

今回は初開催という事で「とにかく、学部・世代を越えて懇親できる雰囲気を楽しみたい、参加者(特に若い世代)に『楽しかった。また来たい。』と思って貰えるようにしよう」という事で講演会等なし、来賓・参加者の挨拶もお酒を交えて懇談をしながら聞くというスタイルで開催しました。その効果があつてか会場のあちこちで談笑の花が咲いていました。

長谷川副学長・加藤先生・平本先生からは大学の現状・課題等について、杉江会長からは「母校の現状の厳しさ(世界最高水準の教育研究活動が相当見込まれる国立大学法人を文部科学省が「特定国立大学法人」に指定した6大学(今は7大学)に北大は入っていない等)を認識した上で大学全体が活性化し、先生方の研究や教育が更に充実できるように我々が支援していなければならない。」と話がありました。

経済学部東京同窓会の陣谷会長には乾杯の挨拶をして頂きました。その中で会長交代の報告があり、永松昌一新会長 (S57年所ゼミ卒) の紹介がなされました。陣谷会長、6年間本当にご苦労様でした。

永松新会長からは、東京同窓会が発展するよう努力していくことの所信表明をいただきました。

今回は初めての合同同窓会ゆえ、文学部、教育学部の参加者数名にスピーチ頂き、夫々から学部やサークル以外でこうした交流ができることは人脈形成に有効であり、今後も機会があれば積極的に参加し、北大の思い出を語り、「都ぞ弥生」の大合唱で青春時代に一瞬でも戻りたい等の話がありました。

また、9月5日の台風23号および翌日の胆振東部大地震により被害を受けた本学キャンパスの支援カンパが実施され、今回の同窓会事務局を務められた今田久美子さん (H2教育) が募金箱を持って会場内に呼びかけて下さり参加者の皆さんの善意により65,650円の寄付が集まりました。(これらの善意はフロンティア基金へ寄付させて頂きました)

最後に「都ぞ弥生」で楽しかったひとときを締めくくり、再会を誓いましたが、かなりの数の方々が2次会に繰り出し、夜遅くまで懇親を深めました。

次回は経済学部単独開催ですが、文・教育の皆様にも声掛けをして賑やかに開催したいと思います。



最後はやはり「都ぞ弥生」で締め

●今年の東京経済学部同窓会

日時：10月11日(金) 18:30~

会場：「こけし屋」 JR西荻窪駅 南口徒歩0分
(S58経済学部卒大石さん経営の有名フレンチ店です)
(<https://r.gnavi.co.jp/p189000/>)

会費：5,000円 (平成21年卒以降は3,000円)

お申込み：9月30日までに卒年と氏名を

iijuft@frontier.hokudai.ac.jp 宛てにメール願います。

東京周辺の皆さま、楽しい集まりにご参加ください!

札幌の家具付き賃貸ならノースステイ

North Stay

North Stay は、札幌でウィークリー・マンスリーマンションや家具家電付の賃貸マンションを運営しております。ご旅行や出張など、お客様のあらゆるシーンにあわせて、快適な住居空間をご提供させていただきます。

〈ノースステイホームページ〉
www.north-stay.com/

札幌市内トップクラスの情報量

札幌オフィス検索

札幌オフィス検索は、札幌の賃貸事務所・オフィスなどへ移転をお考えのお客様に最新の物件情報をご紹介します。ご紹介物件数・更新頻度ともに札幌エリアではトップクラスです。仲介手数料半額による格安なコストでの移転をサポートします。

〈札幌オフィス検索ホームページ〉
<http://of-sapporo.jp/>

株式会社 賃貸生活

代表取締役 佐藤 有

こちらのフリーダイヤルまでお気軽にお問い合わせください

【ノースステイ受付窓口】

フリーダイヤル
☎ 0120-277-271

【札幌オフィス検索窓口】

フリーダイヤル
☎ 0120-989-865

〒060-0062 北海道札幌市中央区南2条西9丁目1-2 サンケン札幌ビル2F
TEL 011-206-8996 / FAX 050-3737-3109

□ 賃貸生活のホームページ

www.on-1.net

ぜひ、お出かけください 今年も経済学部が幹事です!

令和元年

北大経済学部同窓会・懇親会のご案内

例年同様、大学のホームカミングデーに合わせて講演会、同窓会総会、懇親会を行います。ご都合に合わせてどこからご参加いただいても構いません。秋の一日、ご友人やご家族お誘いあわせの上、久しぶりに母校を訪れられてはいかがでしょうか。

日時: 令和元年9月28日(土)

- 講演及およびパネルディスカッション 14:00~16:30**
 「北海道観光の新たな可能性—アドベンチャートラベルとは?」(※)
 パネリスト かとう けいこ 氏 (㈱まちづくり観光デザインセンターCEO)
 渡 辺 敏 哉 氏 (まるぜん観光㈱代表取締役)
 司会 平 本 健 太 氏 (北大大学院経済学研究院長)
 人文科学研究棟(通称W棟)103号…ちょうど博物館の対面です
- 同窓会総会 16:45~17:15**
 「軍艦講堂」2番教室(上記の講演会場に隣接しています)
- 同窓会懇親会 17:30~19:00**
 北大生協 中央食堂2階

会費: 3,000円 同伴家族 2,000円 学生 1,000円

(※) 講演趣旨

インバウンド観光客は年々増加の一途をたどっており北海道の基幹産業の一つとして観光に対する期待がますます大きくなっています。こうした状況において、「アドベンチャー・ツーリズム」あるいは「アドベンチャー・トラベル」という用語が注目されています。2021年の秋にアドベンチャートラベルワールドサミット(ATWS)を北海道に誘致しようという機運も高まっております。北海道観光の新たな起爆剤となるアドベンチャー・トラベルとは何か、その経済的意義や期待される効果はいかなるものか、等についてこの分野に深くかかわっておられるお二人をお招きして北海道観光の新たな可能性について展望します。

卒業生の皆様へ 「北大みらい投資プログラム」へのご協力をお願い

皆様からのご寄附は、苦学生の修学、海外留学、特定の研究、部活・サークル活動など、皆様のご指定される用途に使用いたします。後輩学生へのサポートとして、卒業生の皆様からのあたたかいご支援をいただきたく、心よりお願い申し上げます。

4つのプログラムメニュー

4つのメニューから、サポートしたい取り組みを指定してご寄附いただけます。



給付型奨学金

- 進学サポート奨学金
- 修学継続サポート奨学金



海外留学・インターンシップ等資金

- 海外協定校等派遣・海外語学研修への支援
- 短期留学・研修・国際インターンシップへの支援 等



課外活動等支援資金

- 運動部・文化系サークル支援(個別指定可能)
- サークル会館、体育館、グラウンド整備への支援 等



使途指定資金

- 特定の学部等への支援
- 特定の研究分野への支援 等

寄附方法



PCから



スマホから



北大フロンティア基金HPIにアクセスして下さい。
<https://www.hokudai.ac.jp/fund/mirai.html>

北大みらい投資

検索

web フォームに必要事項をご入力いただき、ご寄附またはお問い合わせが可能です。

- 「クレジットカード決済」
- 「郵便振替・銀行振込」
- 「銀行口座振替」
- 「コンビニ決済」がご選びいただけます。

お問い合わせ先

北大フロンティア基金事務室

〒060-0808
 札幌市北区北8条西5丁目
 北海道大学事務局内
 TEL 011-706-2017
 FAX 011-706-2092
 E-mail kikin@jimu.hokudai.ac.jp
 URL <https://www.hokudai.ac.jp/>

継続寄附のご案内

クレジットカード決済、または口座振替により、継続寄附(毎月・年2回・年1回のいずれかの自動引き落とし)をご利用いただけます。お申込み後の内容変更や解約もインターネットで随時行えます。

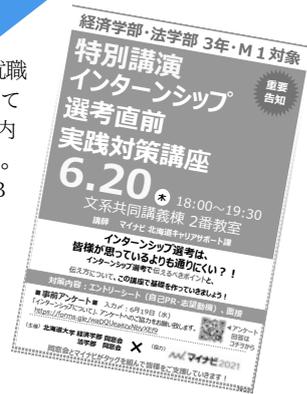
経済学部同窓会とマイナビとの共同企画第一弾

在学生の学業及び就職への支援の一環として大手人材広告企業株式会社マイナビと共同で、主に3年生を対象にインターンシップ参加に向けての準備講座を6月に開催しました。経済学部の授業の一環として2回、授業以外で1回講座を開催し、延べ130名に近



い経済学部生が参加(写真)しました。就職活動が秒読みに入ってきた3年生にとっては、就職を身近に感じる、実践的な講座内容となり、参加者たちには大変好評でした。

今後3年生に向けては、秋にも学部OBを招いての意見交換、選考本番対策セミナーなどを実施する予定です。また1・2年生に向けても「低学年キャリア支援講座」を開き、就職への漠然とした不安や情報不足を解消し、サポートしていきたいと考えています。



協賛金(学生支援金)ありがとうございました

昨年9月より「協賛金」の募集を始めたところ、趣旨に賛同いただいた方々より79万円を集めることができました。

これらのお金は一般の会費収入とは別会計とし、全額を在校生への学業・就職支援のためにつかいます(優秀論文賞の拡張、成績優秀者への表彰、留学や研究施設改善への助成など、学部長との協議を経て用途を決定します)。

今後とも母校後輩へのサポート、よろしくお願い致します。応募いただいた方は下記の通り(敬称略、カッコ内は卒年)。

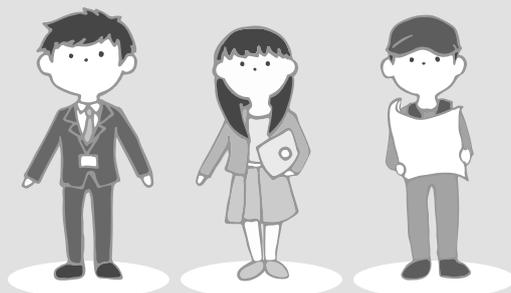
- 20万円 佐々木俊夫 (s57)
- 10万円 阿部孝司 (s39)
- 5万円 加藤勝利 (s35) 中村宙正 (h12)
- 2万円 伊東孝 (s34) 西川平治 (s36) 蔵田博司 (s44)
- 1万円 富田初 (s27) 田中辰二 (s28) 佐藤浩二 (s29) 杉山喜一郎 (s30)
- 古東修 (s31) 高田迪允 (s31) 佐藤茂行 (s32) 横山正之 (s33)
- 漆崎富子(故健治s34夫人) 村山哲 (s34) 広瀬恭平 (s35) 吉崎正人 (s36)
- 城田昌良 (s37) 菅原真 (s37) 村瀬光正 (s37) 佐藤市雄 (s42)
- 坪井孝雄 (s42) 高野一夫 (s45) 西川(西脇)則子 (s46) 濱向昭一 (s47)
- 湯川康史 (s47) 八重樫悟 (s48) 和久井俊秀 (s48) 岩本栄一 (s49)
- 鐵川照夫 (s49) 田中利男 (s50) 宮下隆幸 (s53) 津村晶 (s58) Y.O (s59)
- H.Y (s61) T.M (h3) 小泉修一 (h4) 小島真宏 (h22)

令和元年7月期 収支報告

自 平成30年8月1日 至 令和元年7月31日

項目	金額(円)	備考
前期繰越金	4,478,366	
会費収入	4,567,370	終身会費ほか
協賛金収入	784,450	
広告収入	389,870	会報34号
総会収入	48,000	
その他	3,900	
計	10,271,956	
消耗品費	22,950	インク、ラベル等
会議費	0	
総会関連費	76,093	
助成金	200,000	卒業祝賀会助成、優秀論文賞
通信費	457,252	会報発送代、往復はがきほか
会報作成費	697,154	会報34号
旅費	0	
事務費	600,000	事務局実費
印刷費	26,440	封筒類印刷費等
雑費	242,064	入会記念品
計	2,321,953	
次期繰越金	7,950,003	
合計	10,271,956	

伝える。



私たち須田製版は
企画・デザイン・印刷
という手段だけではなく
WEB・映像・イベント・
マーケティングなど、
多様な手段で
お客さまの“伝える”を
お手伝いしています。

TOTAL PRINTING

株式会社 須田製版

www.suda.co.jp

札幌本社
〒063-8603
札幌市西区二十四軒
2条6丁目-8
TEL.011-621-1000
FAX.011-621-1500



旭川支社・釧路支店・苫小牧支店・東京支店・
滝川営業所・帯広営業所・北見営業所



北海道内のすべてがそろろ
“電子書籍”ポータルサイト「ホッカイドウ イーブックス」

Hokkaido e-books
www.hokkaido-ebooks.jp

名刺広告

パリアフリー本の子ども図書館
公益財団法人 ふきのとう文庫
代表理事

高倉 嗣 昌
(経 昭和36年卒)
業務執行理事
阿久津 良 二
(経 昭和37年卒)

札幌市中央区北6条西12丁目8-3
TEL 011(222)4839

中川原税務会計事務所

中川原 慶 憲
(経 昭和41年卒)
札幌市中央区南一条西二丁目三番地
新栄ビル七階
TEL 011(27)8462

山田建一税理士事務所

山田 建 一
(経 昭和41年卒)
札幌市北区北十九条西五丁目一番十九号
TEL 011(746)5646

札幌監査法人

高野 一 夫
(経 昭和45年卒)
札幌市中央区南一条西十二丁目新永ビル
TEL 011(26)7512

山崎公認会計士事務所

山崎 駿
(法 昭和45年卒)
札幌市中央区南2条西5丁目
サンワイドビル8階
電話 011(21)1786

弁護士

吉川 正 也
(経 昭和46年卒)
札幌市中央区大通西十二丁目南大通ビル4階
TEL 011(26)6677

上野公認会計士事務所

上野 昌 美
(経 昭和47年卒)
札幌市中央区南23条西9-1-25
TEL 011(522)8170

遠藤公認会計士事務所

遠藤 昭 一
(経 昭和48年卒)
札幌市東区北二十二条東十八丁目三番三号
TEL 011(783)8123

弁護士

工藤 倫
(経 昭和50年卒)
札幌市中央区北五条西十二丁目一番地
ベルックス北五ビル B館二階
TEL 011(26)5275

田中利男税理士事務所

田中 利 男
(経 昭和50年卒)
札幌市中央区南3条西6丁目3-12
南3条グランドライビル601
TEL 011(26)2061

株式会社ターフテック

宮本 裕 司
(経 昭和50年卒)
北広島市大曲工業団地五丁目一番地二
TEL 011(37)4011

岩本敏美税理士事務所
(株)イワモトマネジメントサービス
税理士・代表取締役

岩本 敏 美
(経 昭和53年卒)
〒007-0834
札幌市東区北34条東7丁目3番20号 イワモトビル2階
TEL 011(214)1176

不動産鑑定士 宅地建物取引士

目黒 健 児
(経 昭和54年卒)
メグロオフス株式会社 代表取締役
札幌市中央区南一条西六丁目十四番地
大友ビル四階(南)交番沿い(南向き)
TEL 011(218)3566

野村ホールディングス株式会社

永松 昌 一
(経 昭和57年卒)
代表執行役副社長
札幌市中央区南一条西二丁目三番三号

監査法人ライトハウス

北村 好 孝
(経 平成4年卒)
札幌市中央区南一条西二丁目コンチネンタルビル
TEL 011(232)7102

監査法人ハイビスカス

堀 俊 介
(経 平成6年卒)
札幌市中央区南一条西9丁目門札幌S109ビル
TEL 011(826)5265

吉田大吾税理士事務所

吉田 大 吾
(経 平成11年卒)
札幌市中央区南3条西12丁目320-8
札幌森ビル3階
TEL 011(206)4236

税理士法人北前会計

中村 泰 道
(経 平成12年卒)
札幌市北区北7条西2-20 東京建物札幌ビル2階
TEL 011(299)2624
Email: y.nakamura@kitanae.or.jp

池田裕一公認会計士事務所

池田 裕 一
(経 平成15年卒)
札幌市中央区南2条西5丁目10-1
サンワイド南2西5ビル4階
電話 011(23)5240

牧田税理士事務所

牧田 秀 崇
(院 経済 平成22年卒)
苫小牧市音羽町1丁目8番6号
TEL 0144(34)0385
URL: <http://www.wakamaki.com>

連合・労働
相談ダイヤル



0120-154-052

(発信地の都道府県にある連合につながります。相談無料・秘密厳守)

連合は、全国のあらゆる産業で働く680万人の仲間組織する
労働組合のナショナルセンター(中央組織)。
すべての労働者が安心して働き、暮らせる社会づくりのために活動しています。



連合 (日本労働組合総連合会)

連合北海道 会長 出村良平(昭58年卒)

会費のお願い

年会費 3,000円
終身会費 30,000円

振込方法は郵便局、コンビニにて同封の「払込取扱票」にてお願いいたします。
なお、協賛金は郵便局のみとなりますのでご注意ください。

言うまでもなく同窓会活動は会員からの会費収入によって成り立っております。現役の学生を同窓会に迎えたことで財政的には一時的な余裕状況となりましたが、依然厳しいと言わざるを得ません。どうかご理解をいただき年会費(3,000円)の継続入金と終身会費の納入をお願い申し上げます。

また昨年創設した協賛金は一口1万円とし、その使途は原則全額を現役学生への支援に充てます。従来から行っている卒業を祝う会や優秀論文への寄付増額にとどまらず、ゼミ研究・就職活動の支援に使用します。

他学部では同窓会による「寄付金講座」など新設する動きもありますが、身の丈に合った経済学部らしい有効策を、スピード感を持って具現したいと考えております。

なお、協賛金を納めていただいた方のご芳名を同窓会報に記させていただきます。

また、昨年会報で既報の通り、終身会費納入者以外で直近5年間一度も年会費(3千円)を納めていただけない会員に対しては、会報の送付は行いません。

どうかご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

編集後記

●北大経済学部は1950年の第1期卒業から数えて70年が経過します。我が同窓会も在校生を迎えたことで構成員の歳の差が一段と広がりました。今号の「近況」には米寿の大先輩から現役の大学院生までの方々が大学時代の思い出と同時に、職場や家庭での生き活きとした日常を綴ってくれました。「400字程度で」とお願いしたのをしっかり守っての寄稿、ありがとうございました。

●平本経済学院長・学部長の「巻頭言」にもあるように、今年ホームカミングデー(9月28日)の講演会は経済学部が4年に一度の幹事です。北海道観光を新しい視点で考える興味深い企画です。一般の方の参加も大歓迎です。その後の同窓会や懇親会にもご都合に合わせてご参加ください(詳細は17ページをご参照ください)。

●今年の北大合格者のうち道外高校出身者が67.8%と過去最高となりました。思い出せば昔は下宿や寮が当たり前(しかも相部屋だった!)。今の学生は共同トイレなどは論外でワンルームマンションが大人気とか。そのかわり、切り詰めた生活の中で勉強はきちんとしています。

●事務局では同窓会の行事や企画にお手伝いいただける方を募集中です。ワイワイと普段着の運営をしております。少しでもお時間ある方のご連絡をお待ちしております。

(岩)



(株)ブライダルは北海道大学経済学部同窓会の皆様の「結婚」を応援します。

41年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも「結婚」という形で社会に貢献できる企業を目指しており、特に北大校友の皆様には平成18年より「北海道大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この「北大経済学部同窓会報」を見たとおっしゃってくださいれば、校友の皆様は登録料100%OFFにてご入会頂けます。

北海道大コース 登録料 **100% OFF**

ブライダルコース ¥226,800 ▶ ¥194,400 etc.*

エクセレントコース ¥388,800 ▶ ¥356,400 etc.*

※価格は会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。



1978年創業
株式会社

ブライダル

Network 東京・湘南・豊橋・名古屋

東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F
名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F

お問い合わせ
(月曜定休)

☎ 0120-415-412

ホームページ <http://www.bridalvip.co.jp>

